

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成31年 1月12日
(74号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学講座
第78講

「生きる基本を問う!!」

上甲 晃先生



■ 継続の一番の基本

今年は喜寿、金婚式も迎えました。それもまた節目ですが、一番の節目はデイリーメッセージが通巻一万号となったことです。一万日、一日も欠かさず、二七年間三六五日毎日毎日書き続けて、とうとう一万号になりました。私自身は通過点のつもりでしたが、読んでくださる方々が祝賀会を催してくださり、ありがたいことでした。読んでくださる方は五〇〇人いらっしゃるのですが、そのうちの四分の一は二十年以上、半数は十年以上の購読者です。こうなると、単なる購読者ではなく、人生の伴奏者であり、人生の宝物だと思います。

「デイリーメッセージはなんで続いたのですか」とよく聞かれます。いろんな理由はあれど、最大の理由は「読んでくれる人がいたから」です。これが日記だったら絶対に続いてなかったでしょう。自分のためにやることは続かない。しかし、「読者のために」となると、責任がある。だからやめることができない。食事作りもまた同様で、自分のための食事作りならやめることもできるが、子どものためとなると少々のがあってもやります。継続の一番の基本は、この「だれかのために」があつて続くものということ、それがまず一番の実感です。

さらにもう一つの理由は、健康であつたから。健康だったから、書き続けることができた。そう人に話したところ、「それは逆ではないか? 続けたから健康だったのではないですか」と言われました。そういうわけてみると、続けているうちに健康になつていったということが言えるかもしれません。

■ 万物我が師

デイリーメッセージを続けてきて一番の変化は何かというと、生きるのが楽しくなつてきたということです。とにかく、漫然と生きない。書くと思つたら、朝起きた瞬間からネタ探しです。普通の人の何気なく見ていることも、私は真剣に耳をそばだて、目をあけてあらゆるものに目を配つて、ネタを探すのですから、人が気がつかないことにも気づき始めます。毎日毎日が実に楽しく「発見」と「感動」です。デイリーメッセージを続けるなかで注意深くなり、関心深くなり、そしていろんなことに感動することが、生きる力をますます与えてくれているのかもしれない。そう思うと、続けているから長生きできたと思えてきます。

若い人に伝えている言葉に「一つを励め、すべて変わる」。人間、一つのことを励んで道を極めていくと、その極めたことは全てに当てはまる。松下政経塾には「万事研修」という言葉があります。それには「見るもの聞くものすべてに学び、一切の体験を研修として受け止めるところに真の向上がある。心してみれば、万物悉く我が師となる」。本当に熱心な真剣な心で持つてすれば、万物がことごとく師となる。そこに求める気持ちがあるからです。りんごの落ちる風景は誰もが見てきたでしょう、しかし、万有引力の法則を見つけたのはニュートンだけです。それは求める心があつたからです。「求めれば出合う」。求める心のない人は、どんな良いものに出会つても、出会つて出会わず。生きるエネルギーの一番の根っこは、「求めるもの」です。なんとかこうしたい、という求める心があつて初めて出会いがある。一つだけでよい、求めるものを持つということが、人生を元気にしてくれるということを感じてまいりました。

■ デイリーメッセージ三つの原則

私はデイリーメッセージを書いてきて、これだけ

はしないと決めていることが三つあります。それはそのまま自分の生き様にもなつてきます。

①人の悪口は書かない。

読んだら勇気や喜びが与えられるというものにしてこそ値打ちがある。と同時に自分の人生において人の悪口は言わない、言うときは面と向かつて言う、ということが大原則にしたいと思っています。文章で人を傷つけてはならない、今の時代、メールなどであまりにも人を斬りすぎのように思います。

②自らを誇らない。

自慢しないということ、これは三浦綾子さんに教えられました。どこかに人間は自分を誇りたい気持ちを持つものです。

③書けないことはしない。

これは「しないことは書かない」ということではなく、「書けないことはしない」。「書けないこと」というのは、人に言うのは憚られると思われることであり、それをしないということ。これは、自身身を律するための、ある意味大変重い課題です。しかし、どんなに良いことを書いていても、言っていることとやっていることが違っていたら、大変恥ずかしいことです。だからこそ、渾身の力をこめて「書けないことはしない」と自分に課し、自身を純粋化し高めてゆきたいという思いがあります。

これからもこの三つの原則を守り、デイリーメッセージを続けていきたいと思ひます。

一番楽しみなことは、この先体も弱つてきて老化してきたときに、どんなふうを意識が成長していくかということ。料理研究家の辰巳芳子先生はこう仰いました。「やっと本当のことが解り始めたのは八十になつてからよ」。体は不自由になるでしょうが、意識において本当のことが見えるとするならば、この先ひじょうに楽しみなことです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 上甲 晃先生

「生きる基本を問う!!」

【Aグループ】

- ① 国家百年の計が無い
- ② 書けないことはしない
- ③ 一つを励めばすべてが変わる
- ④ 運の強いということは小さなことを全力でやる

【Bグループ】

- ① 一つを励めばすべてが変わる
- ② 書けないことはしない
- ③ 求めれば出逢う

【Cグループ】

- ① 何ごとにも全力を尽くす
- ② 立場はどうであれ意識は社長
- ③ 一つを励めばすべてが変わる
- ④ あなたは後生のために何をうえていますか

【Dグループ】

- ① 国家百年の計
- ② 全力で走る Ⅱ 運が開ける
- ③ 心して見れば、見え方が違ってくる

【Eグループ】

- ① 国家百年の計
- ② 一つを励めばすべてが変わる
- ③ 運のいい人は小さなことも全力で尽くす



《読書会》（Aグループ）

- ・ 指導 近藤宏枝世話人
- ・ テキスト 森信三『一語一会』
- ・ 進行 北嶋紀子塾生

十二月六日

人間晩年になって仕事を与えられるという事は、真に忝い極みと思わねばならぬ。待遇の多少などもちろん問題とすべきではない。

十二月八日

生まれたものには必ず死ぬ時があり、来た者には必ず去るべき時があります。また会



うた者は必ず別れるべき時のあるのは、この地上では、どうしても免れることのできない運命といってよいでしょう。同時にもしそうだとしたら私達も自分が去った後の置き土産というものについても、常に心を用いるところがなくてはならぬでしょう。

十二月十九日

人生を真剣に生きるためには、できるだけ一生の見通しを立てることが大切です。いっぽしの人間になろうとしたら、少なくとも十年先の見通しはつけて生きるのではなく、結局は平々凡々に終わるとみてよい。

《読書会》（Bグループ）

- ・ 指導 細川三郎顧問
- ・ テキスト 福沢諭吉に学ぶ『賢者の知恵』
- ・ 進行 大西由香塾生

◆ 今日、今年一年を振り返っての反省と抱負を、各自に発表いただきました。

- ・ 有言実行する
- ・ すべてのことに全力で取り組む
- ・ 転職先でのハードワーク・ボランティヤ
- ・ 49歳でピアノ再開、継続するために楽しさをもつ

- ・ 職場であいさつを励行する
- ・ 非常勤顧問で、別の目線で後輩を育成したい
- ・ 感謝が一貫した生命の神秘と、ありがたさをバトンタッチする大切さ



- ・ 国家百年の計をもつ
- ・ 好きなことをやる
- ・ 定年退職後ボーとしないで、何ごとにも求めていく

《課外講座》国民の師父 森 信三先生に学ぶ

◇テキスト 森信三先生『一日一語』より
各月八日の至極の一言を参加者で輪読。

一月

これの世の 再び無しといふことを 命に透り知る人すくな
これの世に 幽けきいのち賜びたまひし 大きみのいのちをつ
ね仰ぐなり

二月

人間は腰骨を立てることによって自己分裂を防ぎうる。

三月

同志三名を作らずしてその学校を去る資格なし。

四月

釈尊の説かれた「無情」の心理とは、「この世ではいつ何が起きるかわからぬ」ということです。それ故われわれは、常にこの「無情」の大法を心して、いつ何が起ころうと驚かぬように心しなければならぬ。

五月

「義務を先にして、娯楽を後にする」一たつたこの一事だけでも真に守り通せたら、一かどの人間になれよう。

六月

哲人といえども迷う時はあろう。だが迷う時間が短かろう。悟った人でも迷うことはある。しかし迷う時間が短い。

七月

かにかくにひと世つらぬき生きて来し
そのいや果てぞいのと賭けなむ

八月

すべて物事には基礎蓄積が大切である。そしてそれは、ひとり金銭上の事柄でなく、信用に関しても同じことが言えます。否、この方がはるかに重大です。

九月

自己の道は自己にとつては唯一にして絶対必死の一道になれど、他から見ればワン・オブ・ゼムたるに過ぎないーとの自覚こそ大事なれ。そしてこの理を知ること、を真の「自覚」とはいうなり。

十月

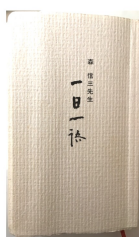
「笑顔は天の花」
笑顔によって、相手の心の扉を開けたらー。

十一月

津軽野をわが訪ひ来ればまづ仰ぐ岩木霊
山よ常若にして
津軽野に清しく立てる岩木嶺よ
霊山といふも宜にこそあれ

十二月

ひとたび「性」の問題となるや、相当な過ちを犯しやすい。
古来「知恵者も学者も踏み迷う」とは、よくも言えるもの哉。



講師紹介 池永辰朗塾生



歌唱指導 柴原啓司塾生



総合同会 小南昭雄塾生

《お薦め書籍》

『一切なりゆき 樹木希林のことば』

樹木希林 著



文春新書
頒価八六四円税込み
ISBN 978-4-16-661104-2

昨年9月に亡くなられた樹木さんを回顧するときに思い出すことは人それぞれです。樹木さんは活字において、数多くのことばを遺しました。語り口は平明で、いつもユーモアを添えることを忘れないのですが、じつはとても深い。彼女の語ることが説得力をもって私たちに迫ってくるのは、浮いたような借り物は一つもないからで、それぞれのことばが樹木さんの生き方そのものであったからではないでしょうか。本人は意識しなくとも、警句や名言の山を築いているのです。それは希林流生き方のエッセンスでもあります。表紙に使用したなんとも心が和むお顔写真とともに、噛むほどに心に沁みる樹木さんのことばを玩味していただければ幸いです。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「仕事の計画」

今日の仕事の若干を、明日に延ばした場合の「明日」と今日為すべき仕事の一切を仕上げてしまった場合の「明日」とでは、同じ明日であっても、その内容はかなり大きく違うといつてよいであろう。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 基本カリキュラム

*日時 平成31年2月16日(第三土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

5F 講座室五〇四(会場変更)

*講師 横田南嶺老師

「禅の教えに学ぶ」

1964年和歌山県新宮市生まれ。

1983年筑波大学に入学。東京都文京区白山道場龍雲院 小池心叟老師について出家得度。1987年筑波大学卒業、京都建仁寺僧堂、円覚寺僧堂にて修行。円覚寺足立大進老師に嗣法。2010年臨済宗円覚寺派管長に就任。『祈りの延命十句 観音経』『二度とない人生だから今日一日は笑顔でいよう』など著書多数。

◆ ご紹介くださいませ!!

● 「聴講」へ

お知り合いの方々を、お誘いください。

聴講費 四、〇〇〇円(小冊子謹呈)

聴講後に入塾いただいた場合、聴講費は塾費より減額いたします。

【新 入塾生ご紹介 1月】

広中輝子さん

〒563-0032 大阪府池田市

【継 続】

宮本しん子さん

〒599-8266 大阪府堺市

《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

「日本史上最高の教育者は誰か」



こうした企画が小学館発行の『総合教育技術』の誌上で読者のアンケートが募集され、この五月に集計結果が発表されました。そうした企画があった事さえ知るよしもありませんでした。

小学館編集部より連絡があり、森信三先生が三〇位の内第八位に登場せられたとのこと報告をいただきました。ついでには森信三先生について取材したいとのこととそれに応じました。

そしてその一覧表を拝見して一層嬉しくしましたのは、第七位が宮沢賢治だったことです。かねてより森先生は、同年で二十日ほどの違いとのこととそれを誇りに思うとさへご生前おっしゃっておられました。それほど先生は、宮沢賢治を心から敬愛しておられました。そして比叡山根本中堂の前に建立せられている賢治の歌碑

ねがわくば妙法如来 正偏知

大師のみ旨 成りしめたまへ

という巨大な碑の前に、かつて比叡山研修の際、枝垂れ桂の苗木を植えました。(昭和40年8月植樹)それが巨大な樹木に成長し、六月には白房をつけるに至っているのです。ですから先年本山のお許しを得て、その樹の下に、森信三先生の歌碑を建立させて頂きました。

そのかみの伝教大師のみこころを

遙けくおもふこの一刻や

賢治の碑前に枝垂れ桂を植えましたと

希ひしこともついに遂げ得たり

話は元に戻りますが、賢治と並んで森先生の名が推挙せられたるは、近來にない喜びです。

「一宮ますみ読書会」百会記念報誌集より抄録